



## 議 事 録



2020年7月27日

委員会名	環境保全・献血・献眼委員会
会議名	第1回 環境保全・献血・献眼委員会
開催日時	2020年7月23日(木)
開催場所	ホテルグランド東雲

内 容	
1.開会	副委員長 石塚 隼人
2.委員長挨拶	委員長 石塚 寿
3.自己紹介	
4.協議事項	
①今期の方針について	委員長 石塚 寿
・植林・植樹の推進	
各クラブで取り組んでいる事業の更なる拡大推進をお願いしたい。	
・動物(犬・猫)殺処分ゼロを目指す事業の推進	
茨城県動物指導センターにて所長より、茨城県のこれまでの取り組み、現状、今後の方向性を確認。譲渡適正がない(治癒の見込みのない病気や攻撃性がある等)犬及び猫の殺処分が行われていることを確認。	
令和元年度において、茨城県では犬猫殺処分ゼロを達成したとしているが、譲渡適正がない犬及び猫の殺処分はカウントされない(茨城県 譲渡候補犬の選定に関するガイドラインに基づき)ため、本当の意味での犬猫殺処分ゼロは達成されていないと考える。	
譲渡適性がない犬及び猫をこれ以上増やさないためにも、飼い主のマナーや「不幸な生命」を生まない、産ませないための啓蒙活動の推進をお願いしたい。	
啓蒙活動として、犬猫殺処分ゼロのポスターを高校及び大学等に配布、正規クラブメンバーへのチラシの配布を検討中。	

#### ・献血活動

コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、企業による献血協力が少なくなり、茨城県として一時的に輸血用血液が不足したが、現在は足りてきている。しかし茨城県が所属する関東等ブロックでは、東京都の輸血用血液が不足しているため、十分な量が確保できていない。

水泳選手の池江選手の献血協力の訴えにより、一時的に献血協力が増えたが、輸血用血液には保存期間があるため、安定した輸血用血液を今後確保していくためには、高校大学時代から献血を身近に感じ、定期的に献血をする習慣を身につけてもらうこと。高校生・大学生への献血啓蒙活動が必要と考え、

高校大学に献血ポスターを配布し、献血の重要性を知ってもらいたい。

各クラブで献血活動を行っているが、献血活動の回数に、ばらつきがあり、年間3回実施を促したい。

企業による献血協力が少ない中、赤十字より献血協力の依頼があった場合は、献血会場の安全性をアピールしていきながら、積極的に献血活動を実施して頂きたい。

#### ・献眼活動

愛の光の提供への支援活動の推進。

(公財)茨城県アイバンクとの協力による献眼啓蒙活動の推進。

献眼登録活動として、クラブ行事や献血活動時に窓口を設置し、献眼登録の呼びかけを実施する。申込書は各クラブに送っている。

#### ②研修会について

毎年赤十字センターにて三部構成で実施していたが、会場が狭く、3密を回避出来ないため、国際会議場での研修会を検討していた。

コーディネーターより9委員会合同の研修会 {国際会議場大会議室 10月31日 10時から16時(予定)} を提案いただいております、参加の是非を検討中。

8月1日に勝田にて各委員会の意見聴衆があり、講話内容(動物指導センター又は献血活動)や献血車の配車や献眼ブースの設置を検討する。

合同研修がダメな場合は、年明け等に実施することもありえる。

#### ③その他

・ポスター配布について

ポスター（犬猫殺処分ゼロ、献血活動）配布について、茨城県内には小中学校、高校、大学等 全 960 校 学校がある。

犬猫殺処分ゼロポスターは、茨城県より小中学校に 9 月に配布予定。

高校、大学に送るポスターについては、郵送又は各クラブに配布を依頼するか検討中。高校に送るポスターについては、茨城県の教育庁に配布を依頼するのがベストと思われる。

・ 廃プラ問題について

環境保全活動として、廃プラ問題を取り上げてみてはどうか。

→

時事的な問題であり、どのように携わっていくか検討する。

ただし、活動範囲が広く薄くなり、結果が出ないのは避けたいと考えている。献血活動時のプレゼントをマイバックするなど、他の活動に合わせて廃プラ問題に携わることは可能と考える。

・ 委員会会費について

食事があった場合は、数千円頂く場合があります。

5. 報告事項及び次回開催について

8 月 8 日の研修会時のキャビネットの要請に応じて、次回の委員会の日時を連絡する。

6. 閉会

常陸大宮 LC 黒澤明雄 L

議事録作成人（署名） 石塚 隼人

委員長（署名） 石塚 寿

